

本小松石で五輪塔と和型石塔を施工 空間を大事にした広大な墓所の設計

千葉県野田市 (有)杉崎石材店

千葉県野田市の野田市駅から徒歩圏内にある有限会社杉崎石材店は1750年代に創業した老舗石材店である。同社の杉崎良樹社長は15代目で、創業以来270年紡いできた歴史を守っている。杉崎社長によれば、「初代から私まで代々全員が扱ってきた石は本小松石だけだと思います」とのこと。本小松石に対しては「気構えが違う」と話す。いわば本小松石のスペシャリストと言っても過言にはならないのが

同社の特徴だといえるだろう。同社から歩いてすぐの場所にある墓地に寄ってみると、そこには本小松石で建てられた石塔が数多く見られる。杉崎家の墓所もその墓地内にあり、そこに並ぶいくつもの石塔に用いられているのも本小松石である。そんな同社が昨年12月に施工したのは、間口420×奥行307寸の広大な個人墓所である。江戸時代から代々続く地元の名士の方が所有するそ

の墓所には、古くから建てられてきた20もの石塔や地蔵が土の上に建立されていたが、それを整理して据え付け直すという改修工事に加え、新たに本小松石で五輪塔と和型石塔を建てるという新規工事を請け負ったのである。しかしながら、最初からこの大規模な石工の依頼があったわけではなく、杉崎社長は経緯を次のように話す。

「お施主の間中様から最初にご相談があったの



上部を修復した宝篋印塔



新規に建立された本小松石の五輪塔と和型石塔



15代目の暖簾を守る杉崎良樹社長

てきました。この墓所では20kgの那智黒砂利を312袋使いました。旧階段をまっすぐに進んだところに、代々

を建てましたが、これがこの墓所の中心となりま

塔の対比もまた、墓所全体のバランスに趣を加えている。

「お施主様に写経していただき、宝篋印塔の中には宝篋印陀羅尼経を、五輪塔の中には般若心経を納めてあります。墓所全体は大掛かりな土木工事でしたし、本小松石の質にはこだわりました。

古石塔は修復によって再生 先祖の建墓を大事にして

本小松石の色は、青手、赤手、グレーに大きく分けられるが、青手の中でも流れるような縞目のある石が五輪塔と代々墓に用いられている。杉崎社長がこの石を選んだのは、見た目に美しいだけでなく、経年変化の少なさからだと。五輪塔の横に建つ宝篋

印塔は上部が新しくなっているが、これは痛みが激しかったために新しく造り直したものだ。この墓所の仕事には石塔の修復工事も含まれていたわけである。この宝篋印塔も蓮華より上部は本小松石で造られており、磨かず

に仕上げられた宝篋印塔と、本磨き仕上げの五輪

をできるだけ残す仕事をしていきたいと考えています。本小松石にしても本小松石にしても、

杉崎社長の提案がお施主の意に合ったよう、階段工事が墓所全体の大規模な改修工事に発展することになったわけである。階段が上がったころには那智黒砂利が敷き

余計なものは一切お薦めしませんでした。あくまでも中心は石塔ですから、石塔が引き立つように周りの空間を活かすという考えです。当社では代々

余計なものを加えずに空間と動線を大切に

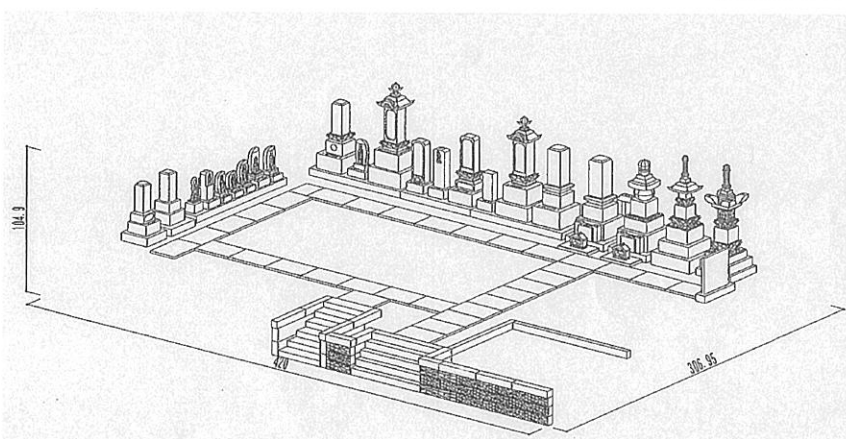
旧家の方からの仕事なども増えております。コロナ禍によって、家や先祖というものを改めて見つめ直す機会が与えられているのだと思えますし、そのことを十分に考える時間もありますから、それが墓所の改修ということに意識を向かわせているように思います。

古いお墓を新しく建て替えることを希望される方もいますが、昔のお墓

をできるだけ残す仕事をしていきたいと考えています。本小松石にしても本小松石にしても、



代々の石塔が並ぶ中でバランスが重要視されている



余計なものを加えずに空間と動線を大切に

「このところ代々続く旧家の方からの仕事なども増えております。コロナ禍によって、家や先祖というものを改めて見つめ直す機会が与えられているのだと思えますし、そのことを十分に考える時間もありますから、それが墓所の改修ということに意識を向かわせているように思います。

古いお墓を新しく建て替えることを希望される方もいますが、昔のお墓

をできるだけ残す仕事をしていきたいと考えています。本小松石にしても本小松石にしても、



那智黒砂利が敷き詰められた広々とした空間に石塔の存在感が引き立つ



通用口としての階段を旧階段の横に新設